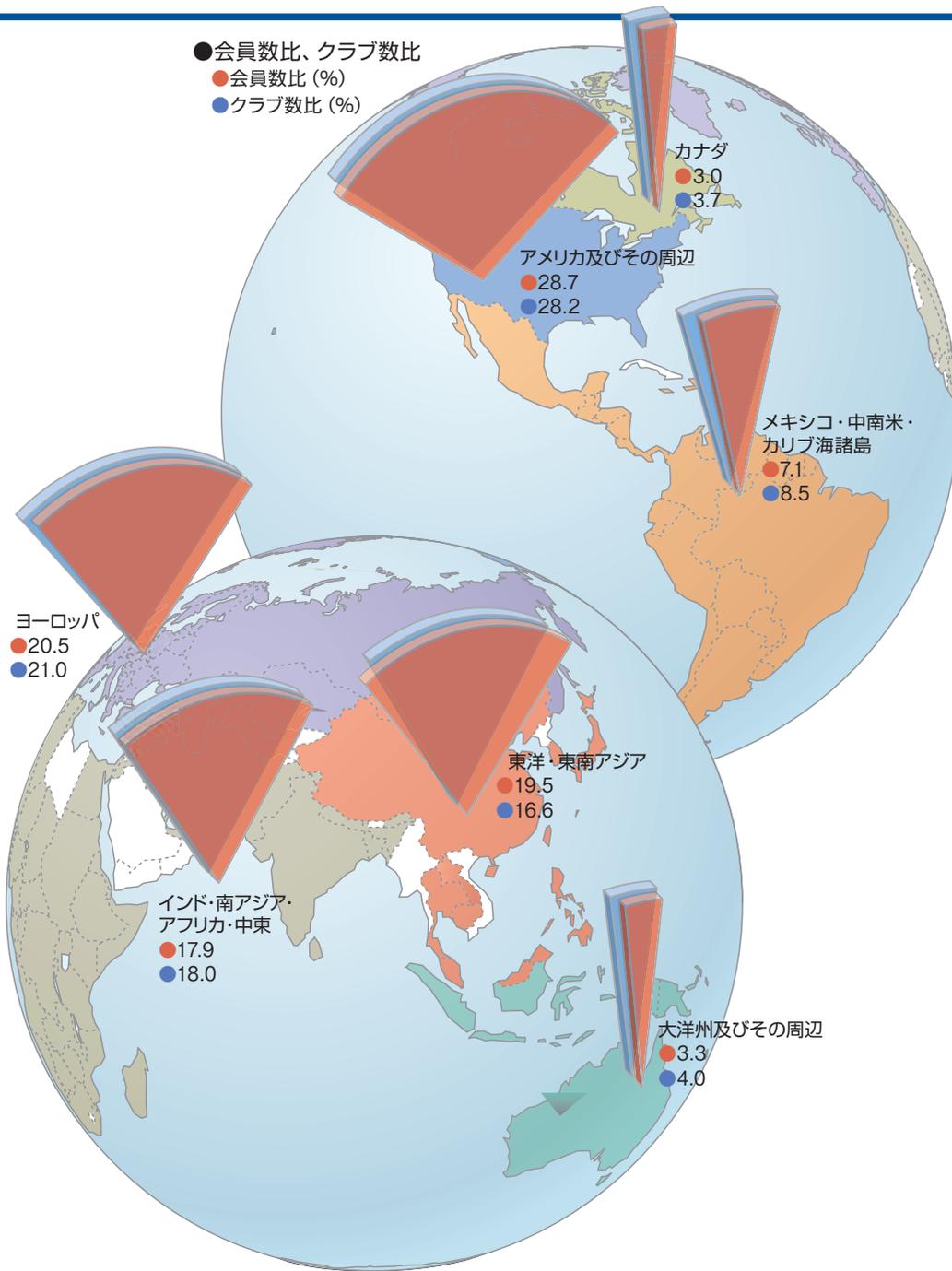


2008・09年度 ライオンズクラブ統計

世界と日本のライオンズクラブの情勢、クラブ・アンケート調査結果、アクティビティ年間集計を掲載

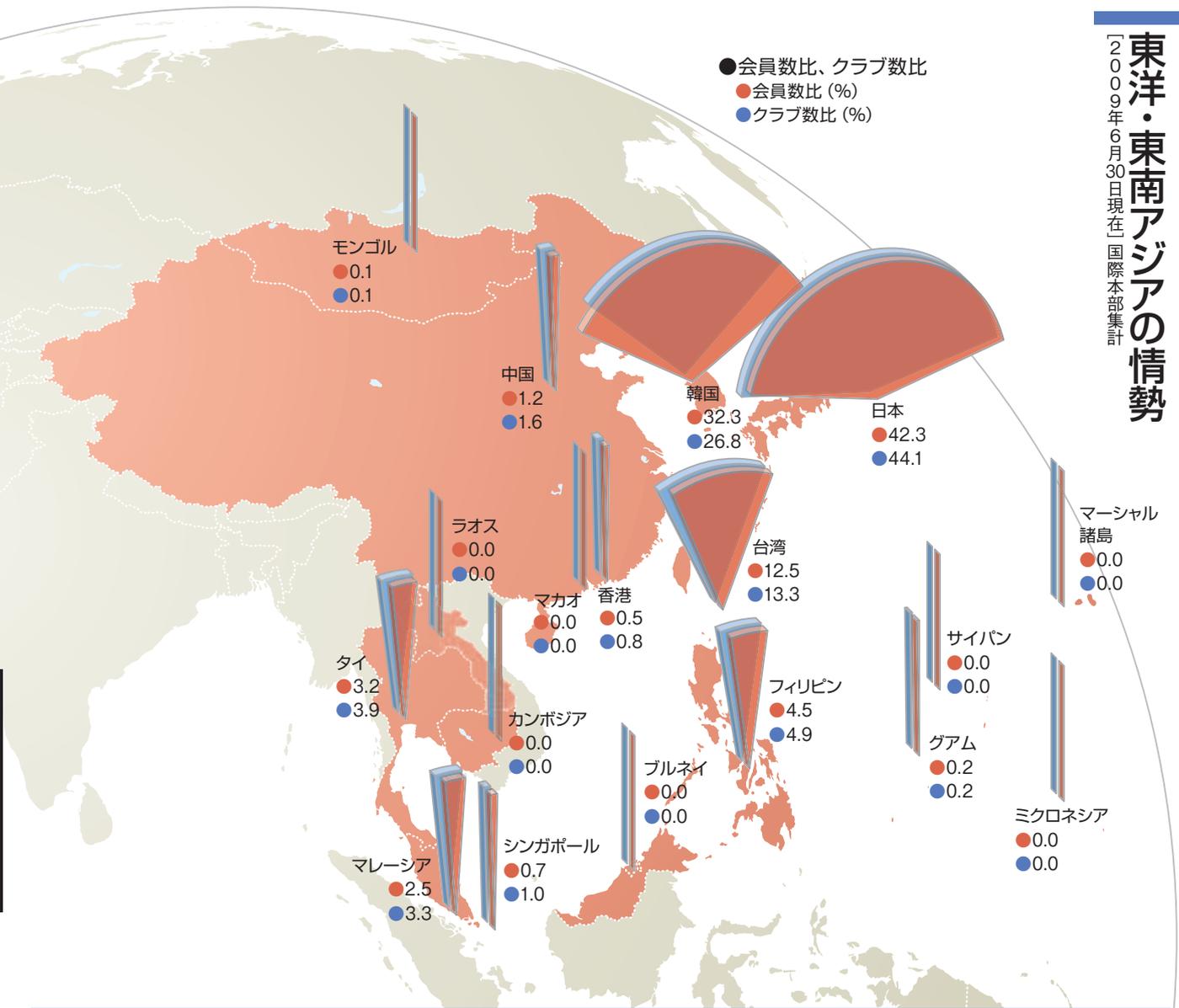
各地域の情勢

〔2009年6月30日現在〕国際本部集計



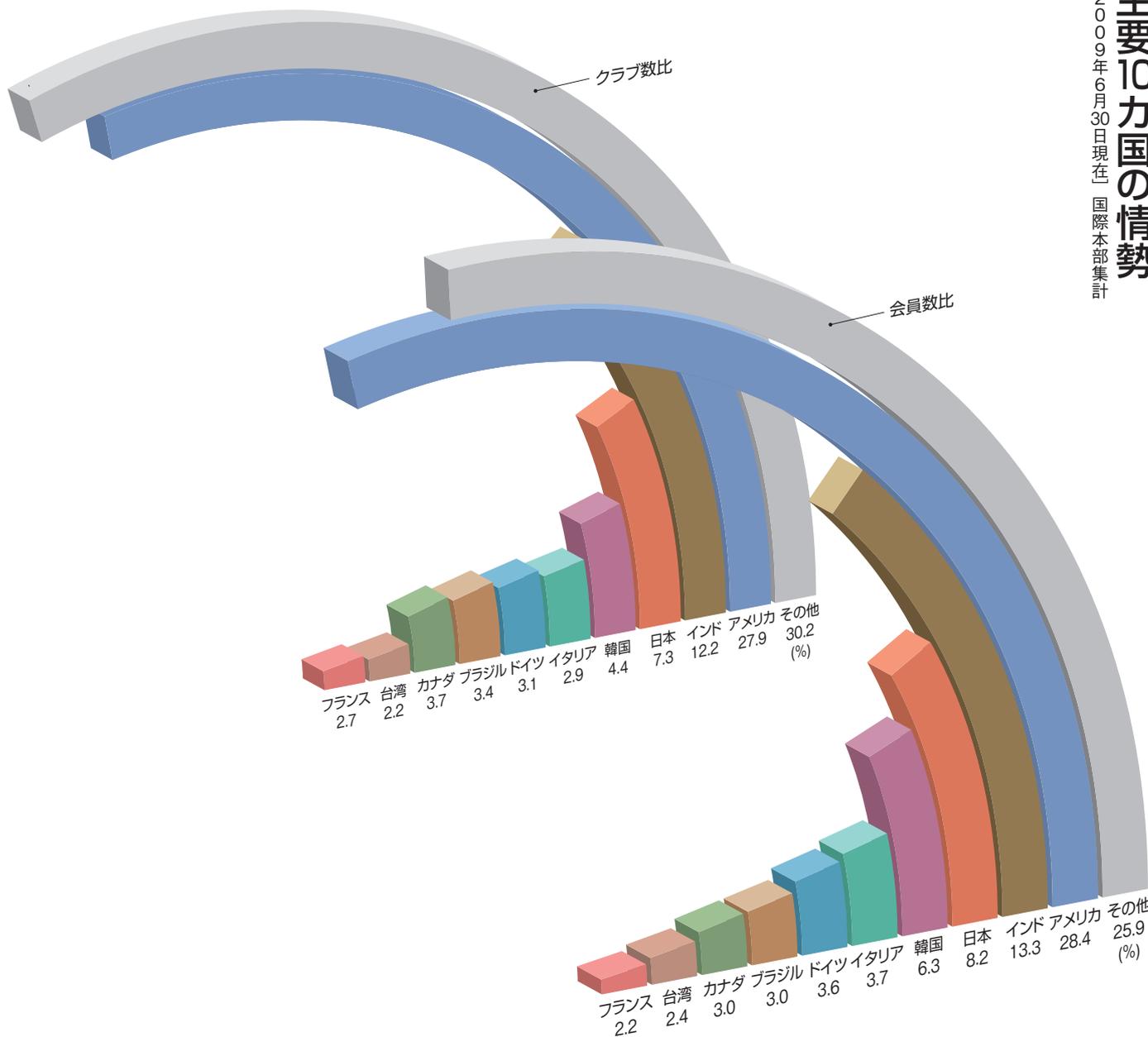
地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ及びその周辺	12,865	239	317	-78	28.2	378,333	44,406	52,161	-7,755	28.7
カナダ	1,676	16	31	-15	3.7	39,753	4,381	4,790	-409	3.0
メキシコ・中南米・カリブ海諸島	3,877	136	156	-20	8.5	94,166	15,918	13,942	1,976	7.1
ヨーロッパ	9,580	161	128	33	21.0	270,341	21,760	23,152	-1,392	20.5
インド・南アジア・アフリカ・中東	8,231	900	352	548	18.0	236,360	60,520	37,474	23,046	17.9
東洋・東南アジア	7,563	225	151	74	16.6	256,949	41,369	43,778	-2,409	19.5
大洋州及びその周辺	1,853	31	41	-10	4.0	43,006	5,854	5,615	239	3.3
合計	45,645	1,708	1,176	532	100.0	1,318,908	194,208	180,912	13,296	100.0

※年度末クラブ数・会員数には、ステータス・クオオも含む



地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
グアム	14	0	1	-1	0.2	403	77	57	20	0.2
ミクロネシア	1	0	0	0	0.0	12	0	0	0	0.0
サイパン	3	0	0	0	0.0	35	11	6	5	0.0
マーシャル諸島	1	0	0	0	0.0	18	4	7	-3	0.0
台湾	1,001	30	17	13	13.3	32,183	6,021	6,618	-597	12.5
フィリピン	369	38	13	25	4.9	11,495	3,576	1,970	1,606	4.5
香港	62	2	0	2	0.8	1,378	248	232	16	0.5
マカオ	2	0	0	0	0.0	50	5	4	1	0.0
マレーシア	245	6	3	3	3.3	6,462	873	863	10	2.5
シンガポール	71	0	0	0	1.0	1,727	215	254	-39	0.7
ブルネイ	2	0	0	0	0.0	35	2	3	-1	0.0
タイ	296	9	6	3	3.9	8,190	1,362	1,569	-207	3.2
日本	3,337	16	62	-46	44.1	108,779	10,303	14,041	-3,738	42.3
韓国	2,025	80	43	37	26.8	82,965	17,084	17,742	-658	32.3
中国	123	42	6	36	1.6	2,974	1,511	385	1,126	1.2
モンゴル	7	2	0	2	0.1	138	74	19	55	0.1
カンボジア	3	0	0	0	0.0	59	3	8	-5	0.0
ラオス	1	0	0	0	0.0	46	0	0	0	0.0
合計	7,563	225	151	74	100.0	256,949	41,369	43,778	-2,409	100.0

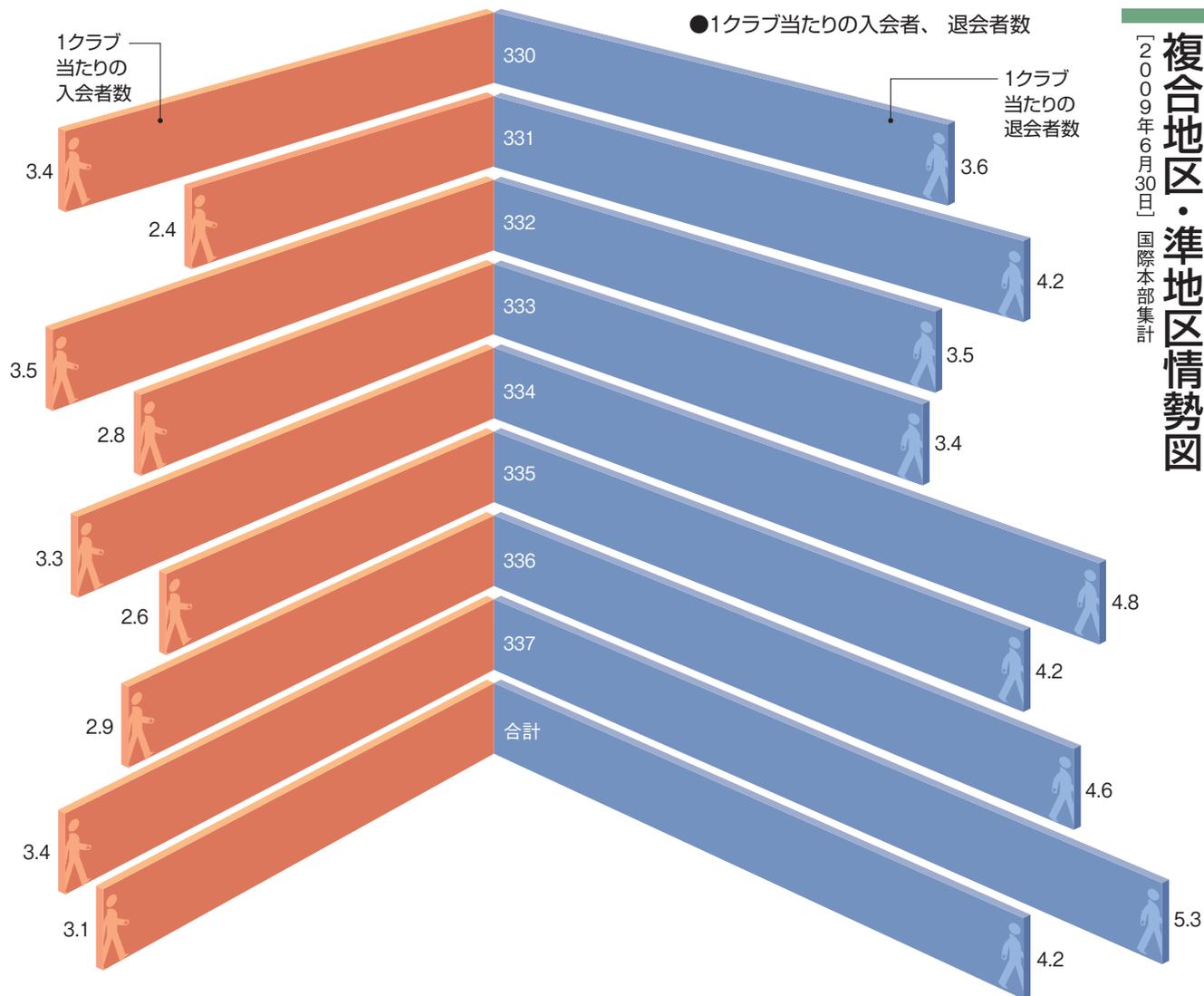
●会員数比、クラブ数比



統計I 世界のライオンズ

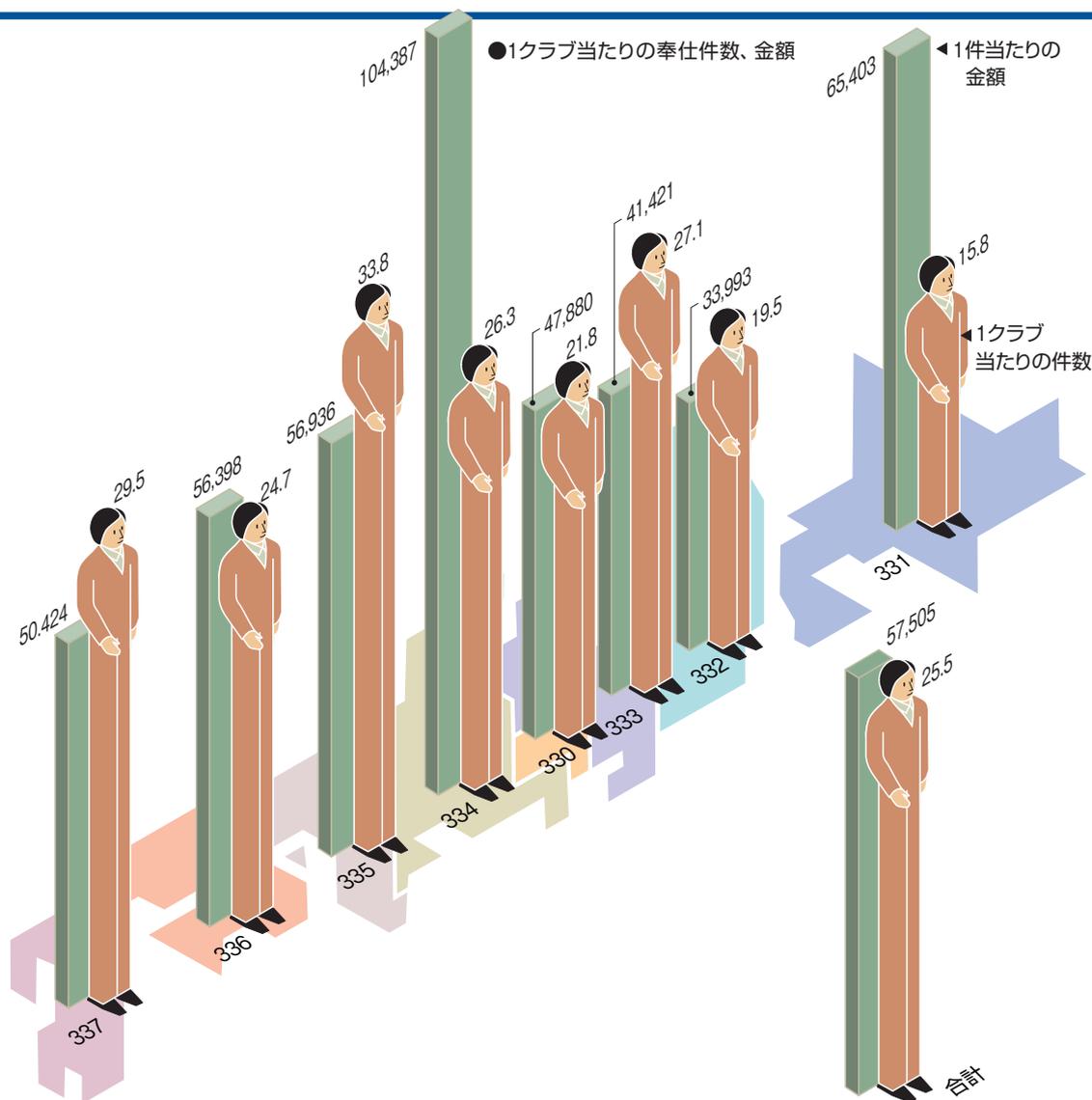
	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ	12,738	235	316	-81	27.9	373,978	43,863	51,553	-7,690	28.4
インド	5,586	631	197	434	12.2	175,465	43,589	25,571	18,018	13.3
日本	3,337	16	62	-46	7.3	108,779	10,303	14,041	-3,738	8.2
韓国	2,025	80	43	37	4.4	82,965	17,084	17,742	-658	6.3
イタリア	1,314	15	9	6	2.9	49,176	3,644	4,747	-1,103	3.7
ドイツ	1,419	23	1	22	3.1	47,735	2,856	1,978	878	3.6
ブラジル	1,574	56	24	32	3.4	39,757	7,153	5,036	2,117	3.0
カナダ	1,674	16	31	-15	3.7	39,700	4,380	4,788	-408	3.0
台湾	1,001	30	17	13	2.2	32,183	6,021	6,618	-597	2.4
フランス	1,239	15	17	-2	2.7	29,044	2,763	3,201	-438	2.2
その他	13,738	591	459	132	30.2	340,126	52,552	45,637	6,915	25.9
合計	45,645	1,708	1,176	532	100.0	1,318,908	194,208	180,912	13,296	100.0

*年度末クラブ数・会員数には、ステータス・クオも含む



複合地区・準地区	クラブ数	クラブ増減	会員数	会員増減	1クラブ当たり入会者	1クラブ当たり退会者	平均会員数
330-A	200	-6	5,395	205	4.7	3.6	27.0
330-B	188	-4	5,160	-75	3.1	3.2	27.4
330-C	102	-2	2,644	-194	1.6	3.5	25.9
小計	490	-12	13,199	-64	3.4	3.0	26.9
331-A	77	0	2,644	-100	3.3	4.6	4.3
331-B	91	-2	2,589	-182	1.7	3.7	28.5
331-C	59	-2	1,842	-114	2.5	4.5	31.2
小計	227	-4	7,075	-396	2.4	4.2	31.2
332-A	68	-1	1,846	-148	1.7	3.9	27.1
332-B	55	0	2,110	380	10.8	3.9	38.4
332-C	79	-4	1,487	-95	1.4	2.6	18.8
332-D	77	0	2,056	-59	2.4	3.2	26.7
332-E	58	0	1,885	-49	2.9	3.8	32.5
332-F	52	0	1,363	-10	3.7	3.9	26.2
小計	389	-5	10,747	19	3.5	3.2	27.6
333-A	79	-1	2,889	-144	2.4	4.2	36.6
333-B	57	0	1,415	-8	1.9	2.1	24.8
333-C	134	-1	3,523	-71	2.6	3.2	26.3
333-D	57	2	2,127	71	5.0	3.8	37.3
333-E	82	1	2,965	-97	2.8	4.0	36.2
小計	409	1	12,919	-249	2.8	3.4	31.6
334-A	120	1	5,558	-208	3.4	5.2	46.3
334-B	85	-3	3,826	-98	4.3	5.5	45.0
334-C	83	-1	3,255	-116	2.8	4.2	29.2
334-D	99	-2	4,111	-177	2.8	4.0	31.5
334-E	53	0	2,141	-78	2.8	4.2	30.4
小計	440	-5	18,891	-677	3.3	4.8	42.9
335-A	105	-4	2,766	-125	2.6	3.0	26.3
335-B	204	0	6,300	-422	2.7	4.7	30.9
335-C	122	-1	4,189	-217	2.1	3.9	34.3
335-D	67	1	2,156	-24	3.4	3.7	32.2
小計	498	-4	15,411	-788	2.6	4.2	30.9
336-A	155	-1	5,910	-278	3.0	4.8	38.1
336-B	97	-2	3,300	-249	2.5	5.8	40.0
336-C	105	1	3,799	-116	3.1	4.2	26.2
336-D	105	-2	3,371	-140	3.0	4.3	32.1
小計	462	-4	16,380	-783	2.9	4.6	35.5
337-A	118	-2	4,547	-198	3.5	5.2	38.5
337-B	80	-5	2,428	-227	3.3	6.2	30.4
337-C	85	-1	3,004	-137	3.5	5.8	35.3
337-D	139	-5	4,178	-238	3.4	5.8	30.1
小計	422	-13	14,157	-800	3.4	5.3	33.5
合計	3,337	-46	108,779	-3,738	3.1	4.2	32.6

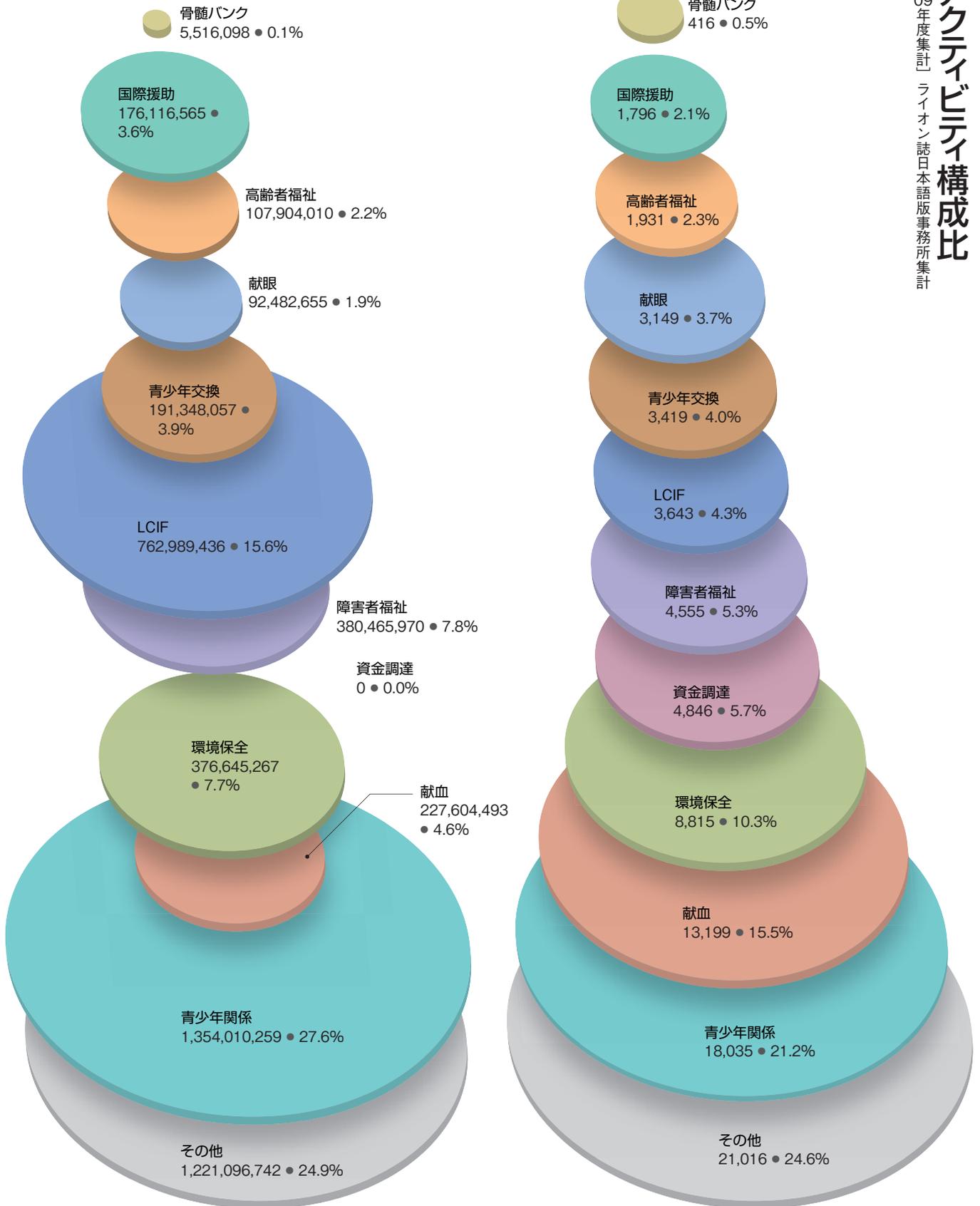
「2008・09年度集計」ライオン誌日本語版事務所集計
アクティビティ地区別構成比



複合地区	準地区	件数	1クラブ 当たり件数	金額	1件当たり 金額	複合地区	準地区	件数	1クラブ 当たり件数	金額	1件当たり 金額	
330	330-A	3,677	18.4	232,643,675	63,270	334	334-A	3,019	25.2	529,748,971	175,472	
	330-B	4,901	26.1	199,468,725	40,700		334-B	2,368	27.9	252,900,574	106,799	
	330-C	2,080	20.4	78,197,408	37,595		334-C	1,712	20.6	111,986,688	65,413	
	小計	10,658	21.8	510,309,808	47,880		334-D	2,860	28.9	188,156,790	65,789	
331	331-A	1,276	16.6	125,780,193	98,574	334-E	1,592	30.0	122,977,979	77,247		
	331-B	997	11.0	69,967,369	70,178	小計	11,551	26.3	1,205,771,002	104,387		
	331-C	1,317	22.3	39,048,561	29,650	335	335-A	3,515	33.5	178,253,560	50,712	
小計	3,590	15.8	234,796,123	65,403	335-B		6,286	30.8	429,060,158	68,256		
332	332-A	982	14.4	49,208,140	50,110		335-C	5,501	45.1	267,912,272	48,702	
	332-B	1,108	20.1	44,708,712	40,351		335-D	1,550	23.1	84,260,171	54,361	
	332-C	1,881	23.8	48,754,418	25,919	小計	16,852	33.8	959,486,161	56,936		
	332-D	1,568	20.4	49,272,388	31,424	336	336-A	4,597	29.7	220,442,203	47,953	
	332-E	1,380	23.8	49,163,659	35,626		336-B	1,827	18.8	122,657,653	67,136	
	332-F	663	12.8	16,625,569	25,076		336-C	2,716	25.9	195,548,231	71,999	
小計	7,582	19.5	257,732,886	33,993	336-D		2,286	21.8	105,756,556	46,263		
333	333-A	2,070	26.2	82,047,292	39,636	小計	11,426	24.7	644,404,643	56,398		
	333-B	994	17.4	47,427,443	47,714	337	337-A	4,841	41.0	268,657,775	55,496	
	333-C	3,885	29.0	156,483,914	40,279		337-B	2,242	28.0	94,127,158	41,984	
	333-D	1,532	26.9	59,379,756	38,760		337-C	1,822	21.4	96,018,956	52,700	
	333-E	2,617	31.9	114,351,557	43,696		337-D	3,562	25.6	169,831,347	47,679	
小計	11,098	27.1	459,689,962	41,421	小計	12,467	29.5	628,635,236	50,424			
						合計	85,224	25.5	4,900,825,821	57,505		

●項目別金額
金額合計 4,900,825,821円

●項目別件数
件数合計 85,224件



少子高齢化で懸念される輸血用血液の不足。献血推進活動のこれから

現在のところ、輸血に必要な血液製剤はすべて献血でまかなわれているものの、少子高齢化の影響を受け、将来、血液不足に陥ることが懸念されている。輸血を必要とする高齢者が増える一方で、献血をする若者が減っているという。

日本の年金制度と同じように、若い世代が、多くの高齢者を支えなければならず、破綻しかねないというのは言い過ぎだろうか。何か有効な対策はあるのだろうか。血液を人工的に作ることが出来ない以上、献血に協力してくれる人を増やす他に方法はない。

(取材／渡辺朋和)

安全な血液の供給のため、日本で献血の普及が始まった当初から、全国のライオンズクラブは献血推進に力を注いできた。1990年には、前年に設置された昭和天皇記念血液事業基金による昭和天皇記念献血推進賞を受賞している。

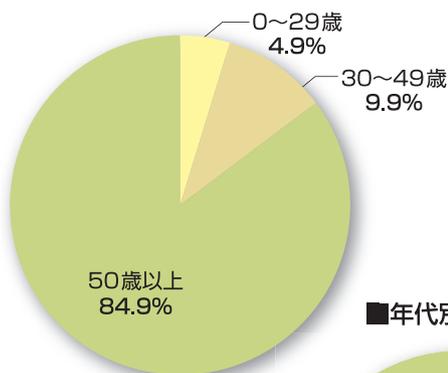
少子高齢化時代を迎え、今後どのような献血推進活動が求められているか、日本赤十字社に取材した。

小中学校からの献血教育で関心を高める

日本赤十字社（日赤）血液事業本部献血推進課の菅原拓男課長は、献血量と献血者数の推移をまとめたグラフを示しながら、「表面的には需要に見合った血液の確保が出来ているのですが、献血者数は減少しています。400ミリリットル献血や成分献血が増え、一人

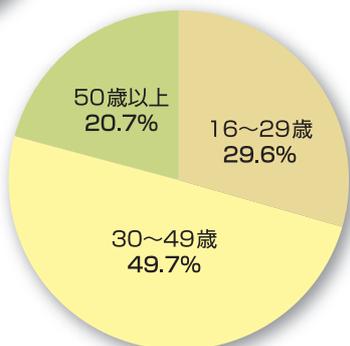


■年代別輸血状況



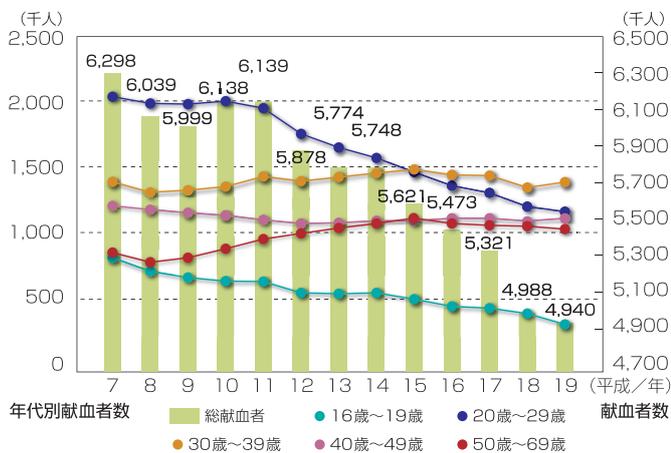
(2007年東京都健康局調べ)

■年代別献血者数



(2007年 全国)

■献血者数の推移



あたりの献血量が増えたことで需要を賄えているのが実態です」と説明する。

東京都の調べでは、輸血を必要とした人の85%が50歳以上の中高年。今後、高齢者が増えることは必至で、輸血用血液製剤の需要は増えることはあっても、減ることはない。

国立社会保障・人口問題研究所が発表する人口推計では、2007年に65歳以上の高齢者は10人に2人だったが、30年には3人、55年には4人になるとしている。そうなれば、いや応なしに人口比率の少ない若い世代が、多くの高齢者を支えなければならぬことが分かるが、加えて献血者が減少していけば、救命医療に重大な支障を来すことになりかねない。

「特に10代、20代の若い人たちの献血が少なくなっていることが心配」と菅原さんは指摘する。

厚生労働省は、将来にわたり安定して血液製剤を確保するために、08年度に献血推進のあり方に関する検討会を設置し、今後の献血推進方策について、さまざまな角度で検討し、その結果が同検討委員会報告書として提言された。

同検討会では、全国の16～29歳の若者を対象に、06年と09年に献血に関する意識調査を行い、献血への関心を聞いている。その結果、関心ありと回答



東京昭島ライオンズによる献血推進活動

したのは、06年には52・2%で、かろうじて半数を上回ったが、09年の調査では45・8%に減少し、無関心派の方が多くなってしまった。

このまま献血に無関心な若者が増えれば、どうなるか。答えは明らかだ。

小中学校からの献血教育で関心を高める

若者の献血離れを、菅原さんは「学校での集団献血が減り、経験していない人が増えたことにも原因がある」と考えている。意識調査でも、献血をしている人の多くは20歳までに経験があり、高校時代に経験がある人は回数が多くなる傾向が見られた。

菅原さんの言う通り、集団献血がなくなったことが献血離れの原因の一つとなっているとすれば、逆に高校生の時に経験させることで、若い世代の関心を高めることが出来るのではないだろうか。献血推進のあり方に関する検討会でも、高校生の意識を高めるための方策が議論されている。

高等学校の学習指導要領解説には、保健体育の時間で献血制度について適宜触れるようにすることが盛り込まれ、2013年、14年頃には、教科書でも献血制度に触れられる予定である。

日赤でも、同検討会での討議を踏ま

え、学校での「献血出前講座」などの体験学習を既に一部で実施している。

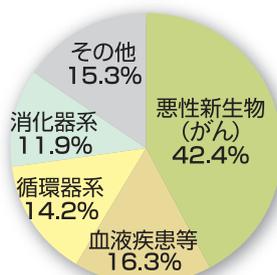
「献血が出来ない小中学生の頃から、血液の大切さや献血制度について啓発教育をしていくことが、高校での献血につながると思っています。ライオンズクラブでは学校と連携して薬物乱用防止教育に取り組みされているようですが、献血は命や健康を守るという点で、通じるところがあると思います。薬物乱用防止教育と連携しながら、献血の啓発を推進していくことが出来れば効果的ではないでしょうか」（菅原さん）

自分も助けられる、という気持ち

若い世代への啓発活動で献血者を増やしたとしても、避けられない問題もある。少子化がそのまま進めば若い世代の絶対的な人口は減る。一人ひとりの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

献血推進のあり方に関する検討会では、400ミリットル全血献血が出来る下限年齢の引き下げと、需要の多い血小板製剤を確保するため、血小板成分献血が出来る上限年齢を引き上げることで、幅広い年齢層から血液を確保することが検討されている。現在、平均的な献血回数は年に1・7回だが、

■疾病別輸血状況



(2007年東京都健康局調べ)

日本赤十字社では、これを2回以上に増やすことで、今後増加することが予想される輸血用血液製剤の需要に対応していきたいという。

例えば、08年4月から複数回献血クラブ会員に対して、糖尿病予防に役立つグリコアルブミン検査を加え、採血時の検査データを携帯電話で見て健康管理に役立てられるサービスの提供を始めた。これによって会員登録者数を増やし定期的な献血を促そうという取り組みだ。加えて採血後のケアが重要と菅原さんは言う。

「採血後の休憩中に、献血した血液がどれだけ役に立っているのか、パンフレットなどで情報提供を行っています。献血が社会の役に立っていると分かれば、回数も増えると期待しています」調査でも、献血をした後、パンフレットを見て社会の役に立っていることを知り、献血回数を増やすことに前向き

きになった人が8割を超えている(献血推進のあり方に関する検討会の資料より)。では実際に、献血はどんなところで役に立っているのだろうか。

疾病別輸血状況を見ると、輸血の約半数が、がんの手術である。今や日本人の10人に6人が、がんで亡くなっている。将来、自分も献血によって命を助けられるかもしれない、という意識を持つてもらえれば、自然に献血への関心が高まるのではないか。

日頃から献血推進のボランティアにかかわっている方は驚くかもしれないが、献血や血液製剤のことを十分に理解している人は少ない。

血液製剤の中でも、白血病やがんなどの疾患で使われる血小板製剤の需要は特に高いため、特定の成分だけを取り出す成分献血を推進している。しかし献血者の中にも、なぜ成分献血を勧めているのか理解している人は少ないようだ(献血推進のあり方に関する検討会資料では献血の種類について認知している人は4割にとどまっている)。

成分献血は血小板や血漿といった特定の成分を多く確保することが出来るメリットがある。採血時間は長くなるものの、回復に時間がかかる赤血球を体内に戻すため、献血者の身体への負担は少ない。献血者にも、患者にとっ

てもメリットがある献血方法なのだ。こうしたきめ細かな情報提供をすることも、献血への関心を高めることが出来るのではないだろうか。

企業とパートナーとなつて献血を推進

献血をサポートする側にも変化がある。献血推進に長い実績を持つライオンズだが、近年は個人情報保護の観点から献血の受付業務にかかわれなくなり、以前ほどやりがいを感じなくなつたという声を聞くことがある。しかし献血した人への情報提供、小中高校生の献血啓発活動など、献血推進ボランティアが必要となる場面は増えている。

最近では社会貢献活動に積極的な企業も増えていて、その一環として社員の集団献血を行う例もある。ライオンズの活動としては、企業への働き掛けも有効だろう。日赤では安定した血液確保のため、献血サポーター制度を設けている。集団献血に協力した企業には献血サポーターのロゴマークを発行し、企業のパンフレットなどに掲載して、社会貢献活動をアピールしてもらうという取り組みだ。

企業を巻き込んだこうした活動に、既に実績を挙げているクラブもある。本誌09年9月号「獅子吼」欄で紹介し

ているが、東京馬場先門ライオンズクラブは、丸の内国際ビルやカシオ計算機(株)などで、企業へ献血協力の呼び掛けを行っている。丸の内国際ビルでは(株)るなび、(株)NKB、(株)日本ペーパー工業、(株)ニスク、金魚園などの企業に呼び掛け、社員に献血をお願いした。

カシオ計算機(株)本社では、同社の会議室に採血ベッドを設置して、総務部を巻き込んで、社員に献血の協力を訴えた。同社はバラリンピックや障害者支援を含め、献血だけでなく、いろいろな分野で社会貢献活動に取り組んでいる。が、こうした積極的な企業もあるものの、残念ながら献血サポーターに登録している企業は、まだまだ少ない。ライオンズとして、積極的に企業に働きかけていくことも出来るのではないだろうか。

日赤では献血について理解を深めるため、全国のライオンズを対象にこれまで2回、北海道千歳市にある血漿分画センターを見学するなど献血推進会議を開催している。今年の開催予定は決まっていないが、「今後もライオンズクラブの方々に向けて、献血推進ボランティアに役立つイベントを継続していきたい」と菅原さん。

ライオンズの献血推進活動に、今後



28年前、ある会員が東京に出張時、上野駅前で活気あふれる献血アクティビティを目撃した。これは!!と早速聞いたところ、東京上野ライオンズクラブで毎月活動中とのこと。ぜひ我がクラブもと提案、承認された。

記念すべき1982年。新町の歩行者天国で第1回の呼び掛けをした。初年度は3回で計519人の採血者を数えた。2年目は5回で978人。8年目に5千人達成。それから9年後に1万人。更に4年後の21年目に1万5千人目となった近くにお住まいの鹿内清江さん(60)は、「元気なうちに困っ

た人の役に立てれば」と笑顔で語ってくださった。

そして遂に28年目の今年、2月28日に2万人達成。第190回目献血活動での快挙!!

記念すべき2万人目の駒木正紀さんは43回目の献血だという。青森あすなろライオンズクラブ(16人)の前田仁会長から認定証と記念品を贈呈した。

04年には厚生労働大臣から第44回献血運動推進全国大会において功績を評価され表彰された。地区のグッドスタンディング大賞及び金賞・銅賞も計7回受賞しており、先輩ライオンの活躍

を物語っている。

青森県知事表彰と感謝状は95年に贈られて以来、ほぼ1年おきに受賞。記念アクティビティとして15周年には献血センターに献血補助車、20周年には血液成分分離装置を、25周年には献血推進広報車、そして30周年には広報用ブルゾンを贈呈した。

現在クラブは会員数が減少、会員増強の焦燥に駆られつつ、先輩ライオンの功績を無にせぬよう、会員一丸となってがんばっている。献血者3万人に向け、新たな気持ちで邁進していこう。(情報・PR委員長/出町時彦)



南房総ライオンズクラブ(20人)が結成されたのは3年前。クラブ運営をスリム化し限られた予算を有効に使うために、事務局と職員は持たず、事務局機能を備えたホームページをインターネット上に置くことにした。会則や入会申込書、会計報告書など、あらゆる書類はここに保管され、会員はこれらを自由に利用出来る。幹事と会員間の連絡もホームページ上。例会や活動の出欠席は会員が自ら書き込み、全体の出欠状況を全員が確認出来る。

更に、今年1月からは、例会でもペーパーレス化を図ることにした。紙資

料の幹事報告書を作らず、例会ではプロジェクトでホームページを表示し、幹事が口頭で活動予定や連絡事項を説明する。

インターネットを活用することの利点を挙げてみよう。

1. 例会等の案内の送付は不要
2. 会員自らが出欠簿に○×を記入
3. 会費の入金状況を全員が確認出来る
4. 例会配布用の幹事報告書は不要
5. クラブ資料共有化で各自の保管不要
6. 事務局及び職員なしで運営

7. 事務局費、通信費、印刷費ゼロ
 8. 事業費に多く予算配分が出来る
- こうした取り組みにより幹事の負担が大幅に軽減し、次期幹事の任命がしやすくなった。インターネットが苦手な人も、例会ごとにホームページを見ることで、自然に無理なく慣れていく。会員は例会出欠を記入するためにホームページを開くので、必然的に情報が伝達される。全員で取り組むことで会員の結束力が増す、など効果は絶大だ。当然環境面でもエコロジカルで、時代に即したクラブ運営となった。

(会長/原田利昭)

カブトムシを育てこども園に贈呈



本年度クラブ結成10周年を迎える豊田シニアライオンズクラブ（光岡茂夫会長／32人）は、青少年健全育成、とりわけ幼稚園児、小学生児童の情操育成事業に積極的に取り組んでいる。

今や子どもたちに人気のアクティビティとなったカブトムシ贈呈は、2001年から幼虫を採取してサナギを越年させ、3年目によりやく100つがいをも市価の半額程度での即売会を行うことが出来た。とはいえ、ここからもまだ試行錯誤の連続で、奇形が生まれたり、孵化した雌雄の数が不確実だったり、毎日床替えを行いエサを与えるの

だが、数が増えてくると逃げてしまうものがあつたり……。さまざまな失敗を経験した結果、5年目に当たる92年度からは、幼稚園を対象をしばらく贈呈することにした。

カブトムシの育成は年間を通じての作業だが、全員で取り組むというよりはどうしても担当者に骨折れり頂くようになってしまふ。93年度までは羽柘植猛、以降は羽築瀬守兄がその重責を担ってくれた。2人の共通点は住環境に恵まれていること、そして子どもとカブトムシが大好きなことある。

羽築瀬によると、2～3月に畑の堆

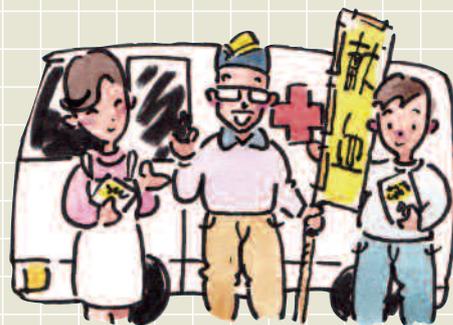
肥の山からカブトムシの幼虫を掘り出し、採取。家の玄関に置いて面倒を見る。6月下旬から7月頃、だいたい幼虫180匹のうち100匹が成虫になって出てくるという。この頃は心配でたまらないのだそう。

今年も7月12日、市内四つのこども園に80匹を寄贈した。この時、子どもたちが去年のカブトムシから2匹の新しいカブトムシを育てたという話を聞いて、羽築瀬は感激していた。

これからも出来るだけ皆で協力してこの事業を続けていきたいと思う。

（幹事／夏目八洲彦）

地元PTAと共に献血活動



天神祭と学問の神様で知られる「大阪天満宮」のおひざ元にある、日本一長いと言われる大阪天神橋商店街。1丁目から7丁目まで南北3kmに及び、最寄り駅が五つある。ただ長いだけでなく、商店街の至る所に歴史があり、今に伝わる名所がある。そしてそこから外れた街中にもまた、いろいろな面白い店や場所がある。

そんな雰囲気ある地域に事務局を構えるのが、我が大阪天神橋ライオンズクラブ（太田明会長／22人）。商店街入り口で年6回の清掃・献血奉仕活動を行っている。

この献血について、地元市民の関心を高め協力者を増やしていくにはどうしたらよいか、クラブでは例会や理事会で何度も議題に取り上げてきた。そして「長く続けていく中で、少しずつで良いから伸びていくことが大切ではないか」と考えていた。

そこで、かねてからアクティビティを通じて交流のある大阪市立堀川小学校と共に奉仕活動することが出来たらと学校側に申し出たところ、快いお返事を頂くことが出来た。同校は国際平和ポスター・コンテストに参加している他、2007年のクラブ結成40周

年に「大阪天神橋ライオンズクラブ文庫」を設置して以来、本の寄贈が続けており、またPTAを対象とした人権擁護講演会の後援を請け負うなどしている。

09年11月から、献血活動にPTAの方々に参加頂いている。通行される知人、友人らにも声掛けをしてくださり、地元を良く知る強い味方を得てうれしい限りである。

地道ではあるが、これからも人と人とのつながりを大切に、地元の方々と共に歩んでいきたいと願っている。

（環境保全・献血奉仕委員長／久徳健三）

世界の国々が安全で生活や人権が守られ、一日も早く紛争や貧困や差別が無くなることを念じて止みません。

我々は世界中で起きている現象を、対岸

の火事と思わず、少しでも出来ることをやり続けて参りたいと思います。

世界中のライオンズのメンバーの皆様、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

献血・骨髄バンク登録を増やそう

清水 厚実（東京馬場先門）

東京馬場先門ライオンズでは、献血並びに骨髄バンク登録事業を重要なアクティビティと位置づけ、年15回から20回を目標に、毎年努力をしている。献血並びに骨髄バンク登録事業の場所と回数としては「日本橋もと」と「数寄屋橋公園」でそれぞれ2回以上、「丸の内国際ビル1階」で2回以上、茅場町の「警視庁中央警察署」で2回以上、渋谷区本町の「カシオ計算機」で2回以上をそれぞれ毎年実施し、大きな成果を上げている。

このうち丸の内国際ビル1階の場合、街頭での呼び掛けに合わせ、同ビルの前にある三菱ビルに事務所を置く(株)ぐるなび、(株)NKB、(財)日本ペア囲碁協会、(株)ニスク、金魚園などの企業にも全面的な協力をお願いし、毎回多数の社員の方に参加を頂いて

いる。これらの企業では、献血並びに骨髄バンク登録日に、役員や総務課長などが各階を回って協力を要請するなど、大変なご努力を頂き、採血者数の確保につながっている。

また、中央警察署の場合も、副署長や総務がマイクなどで館内放送をし、署員の参加を呼び掛けて頂いていると共に、署の前にある(株)ブルドックソースや署の隣にある東京消防庁日本橋消防署等にも呼び掛けをされ、その積極的な参加を頂いている。

更にもう一つ、カシオ計算機の本社の場合は、同社の1階にある大会議室に採血ベッド6台並びに骨髄バンク登録申請机を用意して頂き、そこで社員の皆様が献血や骨髄バンク登録が出来るよう配慮して頂いている。同社の場合、総務部長や総務課長な

お仏壇・仏具はやっぱり京都



(株) 若林

伝統工芸 京仏壇・京仏具

京都本社	〒600-8218京都市下京区七条通新町東入	☎075-371-3131 (代)
東地店	〒146-0081東京都大田区仲池上2-8-13	☎03-3755-8488 (代)
築地店	☎03-3546-8228 (代)	
札幌店	☎011-512-3455 (代)	
仙台店	☎022-213-0666 (代)	
近江草津店	☎077-564-1011 (代)	
福岡営業所	☎092-761-3737 (代)	
新潟営業所	☎025-255-0868 (代)	

◎お仏壇のカタログ差し上げます。
◎お近くの若林各店までお気軽に。

京都ライオンズクラブ会員 若林正博

どが中心となって、前日に全社員に予告して協力を求めて頂いているほか、当日も始業早々に社内放送で全社員に呼び掛け、参加を要請して頂いている。特に午後に入り、献血をしてくださる方が一段落し、参加者が少なくなった時には、すかさず総務部長や総務課長さんが、自ら肩に「献血に協力しましょう」等といったタスキをかけ、各階を回って督促するなど、まさに社を挙げたの協力を頂いており、本当に感謝をして

いる。同社は、CSR（企業の社会貢献）を重要な社是としており、パラリンピックや障害者支援など、いろいろな社会貢献を積極



的に進めておられ、私共クラブの献血並びに骨髓バンク登録事業も、その一環としてとらえて頂き、全社的立場でご協力を頂いており、さすが日本の一流企業であるということを実証されている。

ご承知のように、今、献血は協力者が少なく、大きな社会問題となりつつあり、血液が無かったため、みすみす大切な生命を落としている人も少なくないと報道されている。政府も法律を改正して、400ミリの採血年齢を18歳から17歳に下げると、その拡大に努力されている。

そこで提言であるが、全国のライオンズクラブが行っている献血並びに骨髓バンク登録事業を拡大し、一層成果が上がるようにするため、私共が実践している企業、学校、団体等への協力要請を、

全国のライオンズクラブで
一斉に行って頂くことは出来な
いだろうか。企業、学校、
団体等では、CSR、あるいは社会奉仕（高校、
専門学校、大学等では、この
ような社会奉仕をすれば
単位修得を認められること
になっている）という立場
で、必ず協力して頂けるもの
と確信している。

全国3千余りのライオンズ
クラブが、共に起ち上が

って積極的に努力すれば、必ずや大きな成果を上げ得るものと期待している。多くの

病める人たちの生命を救う活動に、ぜひ結びつけて頂きたいと提言するところである。

ライオンズに魅せられて

木村 實（福岡県・久留米ちとせ）

本誌5月号に「在籍44年を振り返って」と90歳の杉木村義次（徳島西ライオンズクラブ）が投稿されています。

そして44年間の内、例会欠席はただ1回とのことで、大変残念だったのではないかと拝察しています。

奇しくも私も在籍44年になりますが、幸いにも健康に恵まれ、また何よりも例会出席を優先しました結果、44年間例会無欠席をいまだに続けています。よく飽きもせずライオンズライフを続けているものだと時々その理由を自問してみるのが、答えは「ライオンズに魅せられて」としか出せません。それと私は、ライオンズクラブは人間形成の道場と考えています。

相手の意見をよく聞き、勝手な行動を慎み、自己の非は素直に認める。相手を激励し、祝福する心を持ち、自己の責務を果た

す等、団体行動における要諦は欠かせません。相手の人格を尊重しつつ、自己の意見は堂々と述べて議論することで、クラブも個人も成長するように努めなくてはと思っています。

私は10月で齢81歳を迎えます。長寿の時代、長い人生とはまだ言えませんが、ライオンズ人生44年間、長いようで短く、遅いようで早かった歳月を振り返って見ると、ライオンズクラブの各役職と経験、またキヤビネット構成員を任じられたり、更に現在は終身会員に推薦され感謝しております。今後も入会以来の例会無欠席の記録を伸ばしていきたいと同時に、友愛の情に満ちた会員たちとライオンズライフを楽しみたいと思っております。杉木村義次は90歳を超えられています。目標にしてがんばってみたいと思います。